

第1 ヴァイオリン

ヤツェック・クリムキューヴィッチ Jacek Klimkiewicz

生まれ故郷のワルシャワでヴァイオリンをポーランドの名教師イレーナ・ドゥビシュカに師事、若くして早くもウヅコンクールにて1位。ワルシャワ室内オーケストラの第1コンサートマスターを経てドイツ、フライブルク音楽大学にてヴォルフガング・マーシュナー氏に師事。

ダルムシュタット国立歌劇オーケストラ第1コンサートマスターを務めると同時にソナーレカルテットのプリマリウスとして活躍。

ラジオ、CD録音にてドイツ・レコード賞、パリ・レパートリー賞、レコード年間賞であるマイアミの1989年愛好レコード賞などを受賞。

1992年以来エッセンのフォルクヴァング音楽大学の教授として後進の指導をおこなっている。

2002年よりドイツのゼーハイム・ユージェンハイムで行われている夏季国際音楽セミナーの音楽監督。

ソリスト、室内楽奏者として日本、ヨーロッパ、ヴェネズエラ等に招聘されている。



第2 ヴァイオリン

ラオレンティウス・ボニツ Laurentius Bonitz



ドイツの音楽家の家庭で育ち、ヴァイオリンをデトモルト音楽大学にて著名な教授ティボー・ヴァルガーの元で研鑽を重ねながら、師の室内オーケストラのマネージャーの仕事も託されオーケストラの発展に大きな力となる。

室内楽をライナー・モーク、クアルテット・イタリアーノに師事。

ソナーレカルテットを結成し数々のレコード賞を受賞。

その活動を一時中断し1992年から1995年までヴッパータルシンフォニーオーケストラにマネージャーとして

招聘され、その後2006年まで連邦都市ボンのコンサートならびにベートーヴェンオーケストラのマネージャーを務め、数々のコンサートや、フェスティバルを企画。

才能教育促進機関であるライン弦楽奏者アカデミーや、若い音楽批評家のためのロバート・シューマン・スタジオを主催している。

チェロ

アンジェラ・シュバルツ Angela Schwartz



アメリカ生まれのアンジェラ・シュバルツは、ミシガン大学でチェロをオリバー・エーデルに師事。

同大学を最優秀で卒業し、ヨーロッパに渡りドイツのデトモルト音楽大学で名教師アンドレ・ナバラに師事し首席で卒業。

その後ジュネーブにてピエール・フルニエに師事し研鑽を重ねる。

カサドコンクール、チャイコフスキーコンクール、ジュネーブコンクール入賞後ソリストとして数々のオーケストラと共演。

ヨーロッパ、アメリカにて著名な音楽家達と共演し数多くのCD録音を行う。

スイスのベルナー弦楽四重奏団のチェリストとして活躍、マックス・レーガー弦楽四重奏全曲を録音しドイツレコード賞を受賞。

最近では現代曲も積極的に演奏を行い、多くの音楽祭にも招聘されている。

ヴィオラ

小林秀子 Hideko Kobayashi



東京都出身の小林秀子は、桐朋学園音楽大学でヴァイオリンを久保田良作、石井志都子氏に師事し、卒業後ビオラの演奏への関心を抱きドイツのケルン音楽大学にてライナー・モークに師事し同大学を首席で卒業。

数々の国際コンクールにて賞を得て、ソナーレカルテットのビオラ奏者として活動しながら1989年ミュンヘン国際コンクールにて最高賞を受賞。

その後ドイツのマンハイム音楽大学のビオラ教授として招聘され現在に至りドイツ、韓国、イタリア、フランス、ヴェネズエラ等のマスターコースの講師として後進の指導を行っている。

ソリスト、室内楽奏者と活躍している小林にドイツの作曲家 ゲルハルト・シュテプラーから彼女に委託された作品、ビオラとオーケストラのためのノートブックを2004年に初演。

2007年にはニコラウス・A・フーバーからもビオラソロの為のENという作品を初演し絶賛される。

1990年より小澤征爾氏主催の、サイトウキネンオーケストラのメンバーとして毎年参加するなど、国際的なビオラ奏者として名前が知られている。